

## 令和5年度幼稚園学校評価（荒木幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価		評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	幼児、地域の実態から学級経営の基盤として地域の特色やよさ、季節を活かした保育活動を展開している。体験した事柄を保育室で遊びを考え工夫しながら取り組めるよう担任間で保育構想について語り合う時間を設けた。	3	3	3	・コロナ5類移行し経営案に新型コロナウイルス拡大防止としての対応を記載しているが園生活では基本的な生活習慣として捉え対応している。 ・幼児に対する理解・環境に対する理解を職員間で把握している。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の高から課題を捉えて保育を行っているか。	・家庭では体験できない大好きな体験を通して幼児が何を楽しみ、何を表現しようとしているのか幼児の心を理解をするよう努めた。 ・色々な体験の中で幼稚園生活が楽しくなる核となる活動、続けていく遊びであるのか見極める目が必要である。	3	4	4	・豊かな自然と地域探検を遊びに取り入れ、幼児一人一人の心に寄り添いきめ細やかに内面の学びを読み取るよう努めていった。 ・担任一人では遊びの理解は難しいので、補助の職員とも話せる時間を作るよう努めていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・園内支援会議を行い共通理解を図り、組織としての対応に努めた。 ・就学に向けて特別な支援を必要とする幼児の情報共有を小学校と丁寧にかかわることができた。また、関係機関・保護者との合同支援会議では、互いの思いを伝え、継続した支援体制が行えるよう共通理解することができた。	3	4	4	・一人一人の発達(育ち)の状況を把握しながら、保育者との信頼関係の中で個別の支援をしていった。また、補助の職員と支援の方法を共有していく。 ・巡回訪問、就学予定先の小学校との共有、他機関との連携を今後も継続、充実していく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・経営案を元に、全職員が一人一人を大切に温かい学級作りを努めた。 ・トラブル場面は、大切に捉え思いやりの心が育つよう学級で工夫していった。 (顔の表情、心の気持ち)	3	4	4	・にっこり笑顔であいさつする子、しっかり聞いたり話したりする子、のびのび元気に友達と一緒に遊ぶ子を目指し便り等で発信をしていく。 ・様々な感情体験を重ねていく事で、相手のよさを認め豊かな心を育んでいくよう努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事に至るまでに様々な体験をし、遊びを広げたり、深めたりしながら一人一人の育ちを支える援助に取り組んだ。 ・昨年度の反省を活かしつつ、それぞれの行事の教育的価値を十分に検討し、達成感を味わうことができるよう配慮した。	4	4	4	・コロナ5類移行、一人一人の幼児が園内外の活動で、友達と一緒に考えたり工夫したりしながら、共に育ち合えるような行事にしている。 ・家庭や地域と連携しながら体験活動の充実に取り組み、次年度への改善に繋げていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・小学校との合同避難訓練の実施に向けて、担当者間で綿密な打ち合わせがもたされたことは良かった。今後も実施方法について工夫していきたい。 ・1学期に年長児と5年生との交流会が再開され入学してから知っている人がいることがわかり安心感に繋がった。	4	4	4	・5年生との交流活動が実現したことは幼児にとって小学生は頼もしくかつよく見え、有意義な時間となった。振り返りもその場で教師間での話があった。 ・出雲市一斉の保幼小交流会も再開し小学校をさらに身近に感じることができた。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	・行事や保育公開などに参加してもらい人数や機会もコロナ禍前に戻しつつ、1年間の成長を感じてもらえたことができた。 ・個人懇談を年3回実施、学級懇談会、個別の懇談等で、家庭生活の様子を共有し、幼児理解にもつながった。 ・未就園児教室年10回開催する中でプレ幼稚園ごっこを楽しんでもらった。	3	4	4	・保育公開や運動会など参加人数の制限を設けず実施し、幼児一人一人の育ちを見てもらった。感想も家庭内で成長を共有できたことは良い成果となった。一方で遊戯室使用の発表会や次年度の保育活動に向け保護者の感想を元に更に多人数の参加ができるよう工夫していく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・市の研究会も参加人数の制限も減り、実際に保育を見て遊びの協議をすることで経験させたい内容を理解することにつながった。 ・園内研修会は、パワーポイントを使って指導を受けた。担任間で保育を見合う時間をとることが難しかった。	3	4	4	・夏休みの園内研修会は、指導員と共に1学期の保育実践を語りあった。保育案を基に、パワーポイントで保育活動から視点に沿った子供の遊びを示し1学期のまとめにつなげることができ。この方法はよかった。 ・全職員が研究保育を見て、話せるような研究体制を作っている。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・担当している事務分掌を遂行するにあたり、改善や工夫を心がけ達成するよう努力している。 ・全職員が意識してコミュニケーションを図り、情報の共有化を図っている。	3	4	4	・教頭中心に職員間での声かけを積極的にを行い保育活動や日常の業務を遂行していくよう努めたが、限られた職員の中で事務分掌の軽減は難しかった。 ・通常の園務に戻す中で計画的な話し合いやペーパーレス化、精選をする等、職員が協力して取り組んでいく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・定期的に実施した避難訓練、10月には津波による小学校への避難訓練も行った。道中「おはしも」を守って全職員ともに避難することができた。また、振り返りで職員の危機管理意識を高くもつこともできた。 ・幼児の健康管理は、たよりや毎日のボードで保護者に情報発信し、	4	4	4	・危機管理マニュアルを全職員で周知し、幼児の命を守ることに徹することができた。 ・今後、保護者送迎の避難訓練は一斉配信マ・メールを適宜活用し、周知していく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月の安全点検(園舎・園地・遊具・教材等)を行い全職員で安全管理をしている。不備があった場合はすぐ担当課・業者に連絡し、修繕を行っている。 ・園舎の老朽化に伴い、次々と修繕箇所が増えているが、緊急性が高いものから修繕をしている。	3	3	3	・毎月の安全点検票でチェック項目を記載し、新たな危険箇所が見つかった場合は早急に担当課に連絡をする。 ・営繕関係で修繕箇所は継続して報告し、緊急性のあるものから改修をしていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する